



講座のアピールポイント

成人看護学(慢性期)では、生活習慣病など疾患の慢性状態にある患者さんへの看護や、急激に悪化することを回避するために必要な看護、疾患からの回復に向けた健康の維持・増進期にある看護を教育の軸としています。

科学的な根拠に基づいて身体を判断する能力を身に付けるだけでなく、患者さんの気持ち、社会とのつながり、健康に対する考え、これまでの生き方(大事にしていること)などに目を向け、現在の状態をとらえ、その患者さんにとってよりよい未来を想像し看護ができるよう、人としての感性を育む教育に力を入れています。

講座研究紹介

本講座では、病気をもって生きる人々を支えるために、患者さんたちの抱える生きにくさ、生活のしにくさ、不都合さなど、患者さんの経験や表現から明らかにしていく研究に取り組んでいます。専門とする病気や症状は教員によって異なりますが、共通するのは「快適ではない症状や、生きにくさをもつ当事者の視点」です。

その他にも、大学の看護学教育における教育手法を考案・改善していくための教育研究や、慢性病を専門とする看護師の実践力に関する研究、他大学との共同研究などにも取り組んでいます。

模擬患者さんで看護を考えるための教材作成

患者さんへの理解を深めながら、たくさんある情報を整理し、健康上の問題を導き出し、どのような援助が必要となるかを考え、それを実際に提供し、その結果を振り返る一連の過程を『看護過程』と言います。この看護過程を学修するための教材を作成しています。

模擬患者さんを設定し、教員が看護師役となってロールプレイを行っているシーンです。実際に患者さんと接したことが少ない学生でも、患者さんのことや病棟・外来での様子をイメージできるように、シンプルかつリアルな状況をつくるために、知恵と経験とユーモアを結集しています。



血糖測定の「数値」だけにとらわれない教育

食事で摂った糖質は、体内でブドウ糖となって活動のエネルギーになります。その、血液中の糖(血糖値)を測定する検査技術について、学習している場面です。実際に自分の指に針を刺し、血液を採取する学習も行います。いつも熱心な学生が、より真剣に、緊張しながら学習しています。

針を刺し、血液を採取する。…なのですが、この検査に伴う痛み、不安、心配、負担、数値の変化への期待、なども一緒に想像しながら、「患者さんはどう感じているだろうか」「どのようなことを考えて検査を受けているだろうか」、「どう説明し、言葉をかけようか」など、具体的に考えられるような、授業の設計をしています。



「私が大切にしていること」って・・・

看護学実習のカンファレンス(意見交換や学びを共有する学習)の一幕です。

この写真は「もしバナゲーム®」といって、自分にもしも…が起こるときに備えて、自分の望む最期の過ごし方、大切にしている価値観を整理するゲームを行っている場面です。

学生は「実習では、患者さんの大切にしていることを聞かせてもらおうと思っていたけど、自分の『大切にしている価値観』を考えても、あまり分かっていない、そんなに簡単には表現できないことに気づきました」と、振り返っていました。本講座では、「自分のことを知り、自分を大切にすることが、看護をする(人とのかわりをもつ)うえで、とても重要」ということを、常に意識して伝えています。

